

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 柴田町立船岡小学校
職・氏名 教諭・安藤 裕子

1 はじめに

教員8年目 (①2年②5年③6年④6年⑤2年主任⑥2年主任⑦4年主任⑧理科専科)

2 私の教員生活 (初任校での失敗とそこからの学び)

○ 失敗談①「高学年としてのあるべき姿」を求めすぎて

- 高学年としてやるべきことはしっかりとやってほしいという思いが強すぎた。「高学年なんだから、○○をがんばらないと」を口癖のように言っていた。
 - 児童との関係性をうまく築けていなかった。そのため、褒めることも叱ることもその児童には響いていなかった。もっと児童に寄り添った言葉の掛け方があったと思う。
 - 子供たちは、教員が言ったことがすぐできるようになるわけではないのに、長い目で見てあげられなかった。私の思いが先行してしまい、スモールステップの手立てを講じてあげられなかった。
- ◎ 自分の価値観を子供に押し付けすぎない。
- ◎ 高学年の目指す姿(教育計画などにあるもの)は「今すぐ」その姿にならなければいけないわけではない。
- ◎ 常にガチガチの指導ではなく、緩急をつける。寄り添うところは寄り添う。信頼関係を築けているとすと指導が入る。

○ 失敗談②授業準備のために、目の前の子供たちと向き合う時間が減り本末転倒

- 2年目になり校務分掌が増えるとともに仕事量も増え、放課後に授業準備の時間をなかなか確保できなかった。そのため、朝や休み時間に教材の準備を行っていたため、学級の子供たちと関わる時間をあまりとれなかった。
 - 学校・学年・学級の順で仕事の優先順位をつけると教わり、その通りにやっていたが、学級の仕事は「こなす」だけになっていた。
 - よほどの生徒指導事案でない限りは、何か作業をしながらの「ながら聞き」になっていた。
- ◎ 授業も大切だけど、まずは目の前の子供全員に全力に関わる。(かといって、教材研究をおろそかにするというわけではない。)
- ◎ 授業準備は前日まで済ませて、学校にいる間は学級の子供たちを大事にする。
- ◎ 授業の進め方で困っているところは、他の先生の黒板だけでも写真をとらせてもらい、悩み続けない。(放課後に聞く)

○ 「子供たちとの時間を大切に」を意識した3年目

- ◎ 学級づくりの上手な先生の真似
 - ・ 週1でクラス遊び ・ 給食は子供たちの班に入って食べる(コロナ前)
 - ・ 1叱ったら3褒めるの意識

3 これから教壇に立つみなさんへ

○ たくさんの学び(真似)を大切に

- ・ いろいろな先生のよいところを真似する。(算数はこの先生、生徒指導はこの先生…)
- ・ 初任の時の校長先生の言葉「5年目まではまず人のやり方を真似してできるようになりなさい。それ以降になったら、自分のやり方でやっていきなさい。」

○ 自分のモデルとなる目標とする先生を決める

- 5年先をイメージすると今の自分とこれからの自分を見つめなおしやすい。
- ・ 目標の先生ようになるために、自分に足りないところを分析し、改められるよう努力する。
- ・ 「いま何の仕事していますか」は、仕事を覚えられるし、自分が出し忘れていた提出物にも気付ける魔法の言葉。

○ 仕事の優先順位をつける

学校→学年→学級の順にとよく言いますが、初任のときはまずは自分のクラスのことは自分でできるようにがんばりましょう。ただし、一人でやるのではなく必ず学年主任の先生と相談して。

○ 報告・連絡・相談・確認・迅速「ホウレンソウニンジン」を大切に。

- ・ 困ったらすぐ聞く。しかし、自分が何のためにどうしたいの意見は持ったうえで聞くようにする。

4 終わりに

Q1: みなさんは、担任する子供たちをどんな子供に育てたいと思っていますか?

Q2: そのためには、どのようなことをしようと思っていますか?

Q3: 自分の強みや弱みは何ですか?

★ 教員になった動機は人それぞれだと思いますが、そのなりたかった教員という職業に就けた喜びを大切に。

★ 何か問題が起きたときに子供たちのせいにする教員ではなく、自分の指導を見直し粘り強く子供たちと関わっていけるような教員に。

(4月までにやれたらいいな)

- ・ 朝の会や帰りの会、そうじ当番、給食当番、係などのさせ方のイメージ。
- 学校、学年でやり方を揃える場合もあるので、あくまでイメージ。
- ・ 読書(教育書に限らずいろいろな本)

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 大河原町立大河原南小学校
職・氏名 教諭・岸本 香奈恵

1 はじめに

採用が決まった皆さん、おめでとうございます。夢が叶った嬉しさと、仕事に対する不安とが入り混じった状態なのではないでしょうか。これからお話しする私の経験談で、少しでも不安が軽減されれば幸いです。

2 私の教員生活

私は、大学を卒業してすぐ神奈川県茅ヶ崎市の小学校に赴任しました。初めての一人暮らしで知らない土地、不安なことが多かったのですが、子供の頃からの夢だった教員になることができ、期待もありました。

初任校での3年間は最初は大変なことばかりでした。まず、言葉の壁です。共通語を話しているつもりでも、訛りのあるイントネーションは隠せませんでした。また、授業のこと、生徒指導のこと、保護者との対応のこと、たくさんやることはあります。周りの先生方がたくさん「こうやるといいよ」と教えてくれるのですが、同じようにやっているつもりでもなかなかうまくいきませんでした。

でも、子供とは休み時間にたくさん遊びました。校長先生に「休み時間が終わった時、『帰ってくるのが遅いよ!』と言って子供を迎えるより、『楽しかったね!』と一緒に帰ってきた方がいいよね。」と言われたからです。子供への対応も失敗ばかりでしたが、子供たちは慕ってくれて、「来年も担任してください」と言われたこともありました。

同僚の先生方はみないいい人ばかりで、親身になって何でも教えてくれました。学級経営が全くうまくいかず迷惑をかけてばかりいた私のことを見捨てず、たくさん助けてもらいました。初任の時の教頭先生が、ファミリーマートのエプロンを付けて給食の準備を手伝ってくれたことも忘れられません。

保護者対応もいろいろあったのですが、初任の時は、自分の親ぐらいの年齢の保護者の方たちが中心となって、様々な場面でたくさん助けてもらいました。

4年目の時に宮城県の採用試験を受け、地元に戻ってきました。宮城県に戻ってきてからも周りの先生方に恵まれ、互いに助け合いながら働くことができています。初任校での失敗があったからこそ、今の教員生活があると思います。

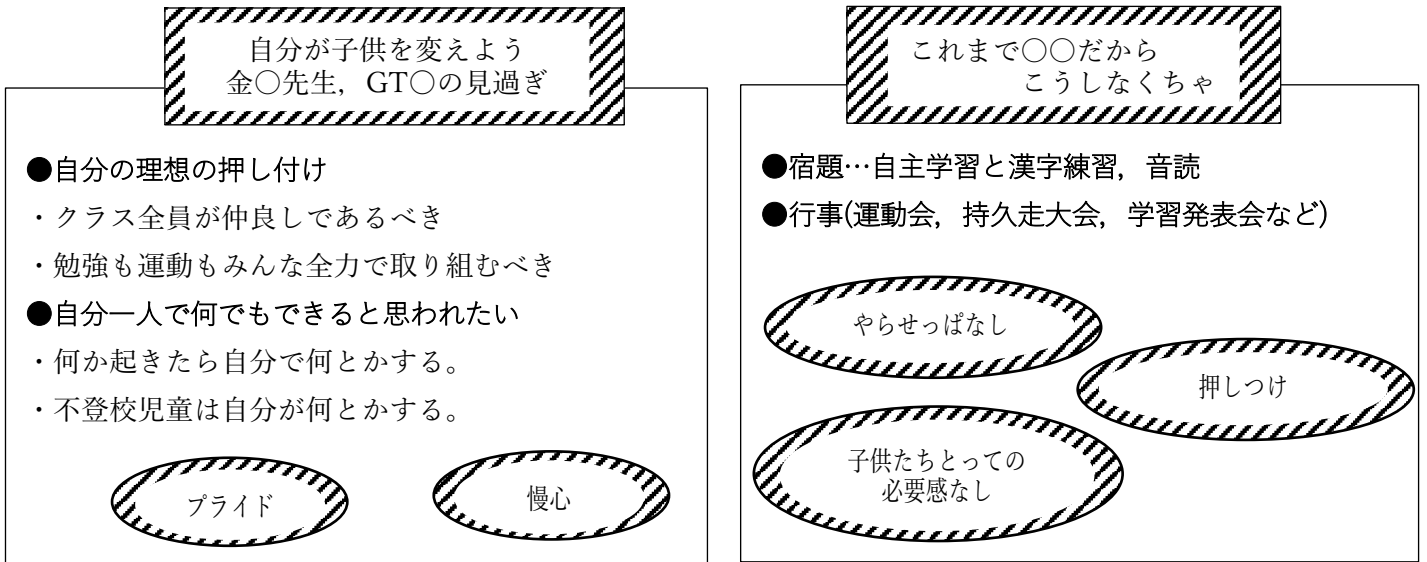
3 これから教壇に立つみなさんへ

最初はどううまくいかないことも多いと思います。でも、それは教員に限らずどの職業でも同じだと思いますし、最初に苦労した人の方が、後々成長できるはずですよ。また、基本的に教えることが好きな人が教員になると思いますので、周りの先生方は何でも教えてくれるはずですよ。また、特に小学校は長期休暇中に休みを取りやすいので、メリハリのある働き方をすることもできます。不安なこともたくさんあると思いますが、大丈夫です。最初は失敗して当然です。周りの先生にアドバイスをもらいながら、どんどん様々なことに挑戦してほしいと思います。4月から一緒に働けることを楽しみにしています。

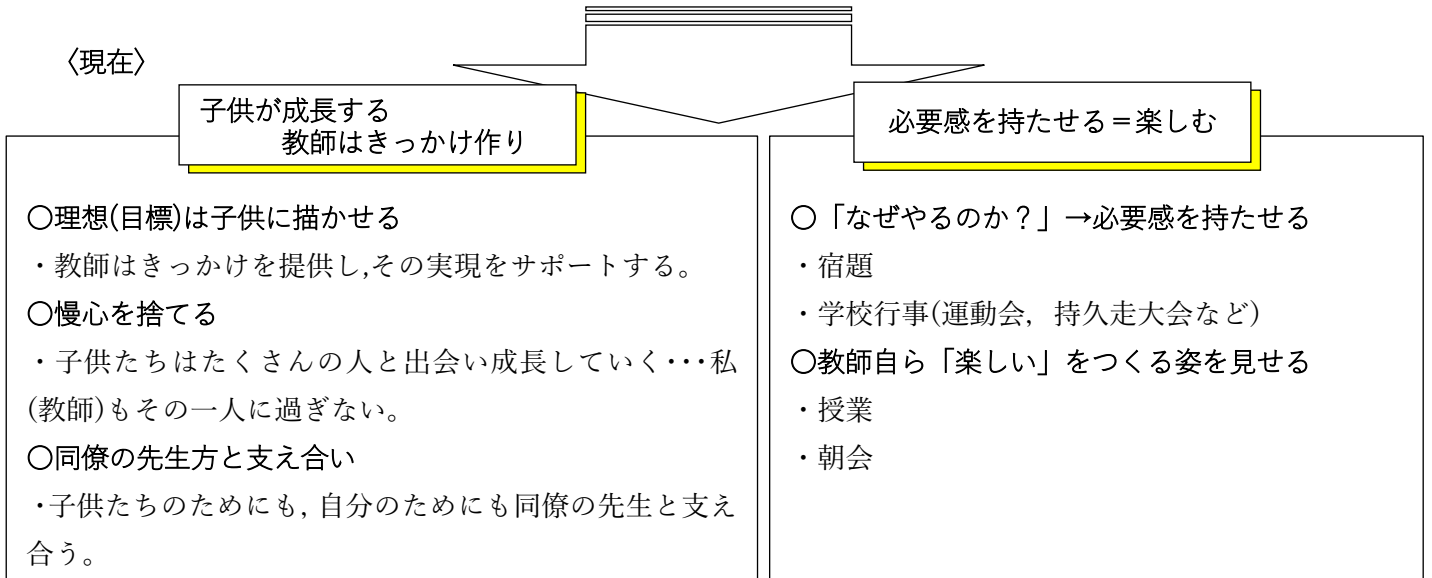
みやぎの教員からのメッセージ

所属校 丸森町立丸森小学校
職・氏名 教諭 阿部亘平

〈採用当時の自分〉



〈現在〉



〈最後に…〉

ニュースやSNS等では「教員はブラックだ。」と騒がれています。しかし、教壇に立つチャンスがある皆さんには、一度本気で子供や仕事と向き合ってみてほしいと思います。そこで、自分にとって教師としての価値(やりがい)を見つけてもらえたら幸いです。

そして日々子供を取り巻く社会は変化しています。私たち教員が乗り遅れないようにアップデートしていきましょう。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 富谷市立明石台小学校

職・氏名 教諭・高橋 桂吾

1 はじめに

①自己紹介

教員歴：15年目（勤務歴：大崎市の小学校 → 大学附属小学校 → 富谷市の小学校）

家族構成：妻、長男（小2）、二男（幼稚園年長）

好きな○○：日本酒、息子との昆虫採集、釣り、電子基準点・三角点探し など

苦手な○○：たこ焼き、ハサミムシ

②私が教員になったきっかけ

家族の存在

担任の先生

2 私の教員生活

① 子供って、どんな存在？

- ・「遊ぶ」ことの大切さ

② 授業の実際

- ・今の学校現場で行われていること（ICT機器について）
- ・授業はどうやって作っているのか
- ・これだから教師は面白い
千差万別な子供たち、面白い先輩先生方

③ 私が感じた・感じている悩み

- ・鉄人先輩方 教員っていつ休んでいるの？
- ・子供ってこんな感じだったっけ？
- ・自分の将来はどうすれば？

3 質疑応答（これからの教壇に立つみなさんへ）

- ・不安に思っていること、何をすべきか、どんな未来を描いているか、なんでも相談してください。

4 終わりに

教師になって大切だと感じた言葉

「授業が主、授業はいきもの」、「段取り八分」、「教員も人間、間違えないわけがない」

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 大和町立吉岡小学校
職・氏名 教諭・川名 健太郎

1 はじめに

- ・出身地など
- ・勤務歴

平成19年～平成21年 石巻市立渡波小学校
平成22年～平成25年 石巻市立須江小学校・・・平成23年3月11日震災
平成26年～平成27年 大崎市立古川第三小学校
平成28年～平成30年 宮城教育大学附属小学校
平成31年（令和元年）～ 大和町立吉岡小学校

- ・現在の主な校務分掌 研究主任・初任研校内指導員・算数少人数指導など

2 私の教員生活

社会人としての自覚をもつことから

- ・学生から社会人へ・・・「教育公務員」とは？
- ・誕生日の出来事・・・「三つ子の魂百まで」一年目の行動が将来にまで影響？
- ・自分のこと<学校のこと, 学年のこと, 相手がいること
- ・職員室外での人間関係・・・職場全体の会, 同学年の会, 気の合う同僚の会, 研修仲間の会, OB・OGの会, PTAの会など

様々な家庭環境にいる子供たち

- ・朝のお迎え, 昼の逃走, 夜の搜索
- ・保護者対応・・・クレーム, 電話・家庭訪問・来校, いろいろな誘い, 虐待など

一寸先はハプニング

- ・突然病院からの電話
- ・「先生来ないんですけど・・・」・・・職員室で, 家庭訪問で, 卒業式一週間前に・・・
- ・他校に出向いて「初の出前授業」・・・雪にはまった車をレッカー業者に任せながらの授業

この仕事でしか味わえない「やりがい」があるから頑張れる

◎大変な中でも子供たちの純粋さ・成長していく姿に心を打たれる

「あれ?」「なぜ?」「分かった!」「できた!」というキラキラしたまなざし

◎「みんなでやる」から「感動するドラマ」がある

長縄大会本番でベスト記録を更新・・・クラス全員で喜びを爆発

「クラス全員リレー」でアンカーが抜かれる・・・誰一人責めずたたえ合う姿

心に響く子供たちの歌声・・・合唱の動画（令和元年吉岡小4年生）

◎震災の年に担任した教え子が教員に

3 これから教壇に立つみなさんへ

- ・「元気があれば何でもできる」・・・心身の健康が一番
- ・「子供の目の高さ」で見る・聞く・考える・・・学級経営・教材研究・授業改善のポイント
- ・「余白の仕事（誰かを支える仕事）」を大切に・・・いつか自分に返ってくる・支えてもらえる
- ・「一期一会」「縁は異なるもの味なもの」・・・人との出会い・つながりを大切に
異動の多い職業だからこそ縁がつながる

4 終わりに

今日この場でお会いできたことも縁です。「みやぎの教員」のチームメイトとして一緒に頑張っていきましょう。本日はありがとうございました。どうぞよいお年をお迎えください。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 富谷市立富谷小学校

職・氏名 教諭・佐藤 翔一

1. はじめに

今回このような機会をいただき、自分の教員生活を振り返る良い機会になった。私自身の経験で皆さんの助けになるか分からないが、これから教員生活をスタートさせようとしている皆さんの今後への期待が膨らみ、また不安が少しでも減るような機会になればと思っている。

2. 私の教員生活

【初任での経験】

私は、利府町立利府第三小学校で教員生活をスタートした。授業は失敗ばかりで、悩んでばかりいた。初任研担当教員は熱心に私を指導してくださったが、期待に応えられない日々に悔しくて涙を流す時もあった。今思えば、授業で失敗は当たり前ののだが、早く1人前にならなくてほと焦りもあった。子供のことを考えてひたすらチャレンジする日々であった。

【指導主事訪問】…年に1度教員の授業力向上などの目的で指導主事が派遣される

初任の年の指導主事訪問で授業は大失敗。参観の先生が途中で退出するくらいひどい有様だったが、同期はずっと最後まで参観してくれ、授業後にはねぎらいの言葉をかけてくれた。大切な仲間の存在に感謝した。今でも連絡を取り合い、仲良くさせてもらっている。

【子供たちとのつながり】

初任で持った子を3年目でも持たせてもらった。その年は妻が出産するタイミングで、サプライズで色紙をもらった。子供たちの気持ちがとてもうれしく、感激したのを覚えている。

3. これから教壇に立つ皆さんへ

● 謙虚

できることが増えてくるが、決してそれに驕ることのないようにしている。いろいろな人の仕事ぶりや授業から学ぶことはできる。学び続ける気持ちが大切。

● つながり

子供や教員とのつながり。特にメンターを見付けると良い。その憧れに向かって行動しようという気持ちが出てくる。

● 省察

日々の実践を振り返る。失敗ばかりでも、うまくいく時は絶対にある。自己を振り返り、目の前の子供たちにできることを考える。

4. 終わりに

大変なイメージが強い職業かもしれない。ただ、これからの教員という職業を皆さんと一緒にアップデートしていきたい。子供たちとの出会いを楽しみに4月を迎えてほしい。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 石巻市立中津山第二小学校
職・氏名 教諭・横田 英里

1 はじめに

私は教員という仕事が大好きであり、学校は私にとってかけがえのない場所です。それは、子供たちの様々な成長を近くで見ることができるからです。教員になったみなさんが、子供たちと楽しい毎日を過ごしていけるように、少しでも参考になれば幸いです。

2 私の教員生活 ～「最も忘れられない6年生」から教えてもらったこと～

教員1年目の3月、東日本大震災を経験しました。当時の所属校は、学校再開が非常に早く、次年度の4月12日には、始業式が行われました。そのような中、2年目で担任した6年生。全校児童の9割以上が自宅を失い、生活すらもままならない中、「本当に子供たちが登校して来るのだろうか」という先の見えない不安でいっぱいでした。ただでさえ、初めて卒業学年を担任するという責任を感じている上に、このような状況も重なったことから、私が担任でよいのだろうか悩むこともありましたが、始業式に登校してきた6年生は大人の想像を超えるたくましさでした。私はそのとき、「この子供たちのために全力を尽くそう」と決意しました。

そこから毎日、子供たちの「心の成長」を感じることができました。不安に思う下級生を気遣い、学校生活の随所で当たり前のようにリーダーシップを発揮しました。もちろん、悩むことや思い通りにいかないこともたくさんありましたが、私も子供たちも本気で向き合い、一緒に解決策を見付けてきました。それが、互いの成長につながったと感じます。夢中で駆け抜けた1年間でした。

そして迎えた卒業式。「この仲間と先生だったから、1年間乗り越えられた」という言葉を子供たちからももらったとき、心の底から教員になってよかったと感じました。子供と共に成長できることも、教員の魅力の一つであると考えます。

3 これから教壇に立つみなさんへ

(1) 自分の強みを知っておく

4月までに、自分の得意なことや好きなことを話せるようになっておくとうれしいと思います。新任の先生は、自己紹介をする場がたくさんあります。初めて出会う人に興味を示すのは、大人も子供も同じです。職員室で、少しでも自分を知ってもらうために、自分から好きなことを伝えるのは、とても大切です。それをきっかけに、会話が生まれるからです。子供にとっても、先生の特徴となり、「〇〇が上手な先生」や「〇〇と一緒にしてくれる先生」などと、印象付けることができます。

(2) 気付いたときに行動できる力を身に付ける

気付いたときに行動できる力の中で、最も大切だと考えるのが「相談すること」です。4月は隣の先生が何の仕事をしているのかも、職員室で飛び交う言葉も理解できないことが多くあります。そのときに、相談することは簡単な方法だと思うかもしれませんが、私が新任のときは、これが一番難しいと感じました。4月に着任してすぐの職員室で、忙しそうな先輩方に声を掛けるタイミングが分からず、その遠慮がしばらく続いたことを覚えています。分からないことがあったときに、自分でじっくり考えることも大切なのですが、時間に限りがある仕事や緊急を要することもあるため、すぐに相談することを大切にしたいと思います。

4 終わりに

教員は、本当に多くの方々と出会い、深く関わる仕事です。子供や保護者、同僚との出会いから多くのことを学び、それが必ず自分の糧になります。そして、常にアップデートし続ける先生であってほしいと思います。私も、今年1年間、研修の機会をいただき、これまでの教員人生にはなかった学びを得ています。ぜひ、「昨日より今日、今日より明日と自分をアップデートし続ける」という気持ちを大切にしてください。その気持ちがあれば、頑張って「いい先生」になろうとしなくても、なれるはずですよ。もちろん、私自身もこの気持ちをずっと大切にしていきたいと感じます。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 気仙沼市立大谷小学校

職・氏名 教諭・榎木 千枝

1 はじめに

南三陸町立名足小学校から教員生活が始まりました。その後、気仙沼市立落合小学校、気仙沼市立新城小学校で勤務し、現在は気仙沼市立大谷小学校で6年生を担当しています。

2 私の教員生活

全校集会，私の学級だけ落ち着かない……

私の初任校では、毎週決まった曜日の朝に全校集会がありました。事前に自分の学級の児童に「しっかりと話を聞きましょうね」と声を掛けるのですが、集会が始まるとすぐにおしゃべりをする児童がちらほら。他の学級の児童はみんなしっかりと聞いているのに。

あの先生を真似しよう！

初任者研修で先輩の先生の授業を参観中、児童が明るく楽しい雰囲気の中で授業に臨んでいる様子をとてもうらやましく思いました。「よし、あの先生を真似しよう！」と思い、さっそく実践したのですが、全く思ったとおりにはいきませんでした。

3 これから教壇に立つみなさんへ

うまくいく「こつ」

児童が夢中になる授業をする先生、児童の心に響く話をする先生、指示が的確で児童を素早くまとめる先生……。学校には指導力があり魅力的な先生方がたくさんいます。指導力や魅力は一朝一夕に身に付くものではありませんが、その先生方が押さえている「こつ」を見付けることができれば、一歩近づくことができるかもしれません。

また、今はインターネットでも素晴らしい授業実践や教育技術などが公開されています。4月までの期間に学んでみるのもお勧めです。

目が回るような1年目～その先で気付く子供と自分の成長

毎日5～6時間の授業、初任者研修、学校行事、校外学習、職員会議、打合せ、児童のけんか、保護者からの相談……。突発的な出来事が同時に複数起きることもあり、混乱することも。それでもそれらの一つ一つを乗り越えることで、自分の経験値が少し上がります。何よりそんな日々を通してどんどん成長していく子供たちの姿に、教師としてのやりがいを感じるのははずです。きっと2年目には1年目とは少し違った景色が見えてきます。

4 終わりに

皆さんが4月から働く学校の児童や先生方は、皆さんが赴任して来るのを楽しみに待っていると思います。赴任してすぐの頃は、たくさんの児童生徒や先生方から話し掛けられると思いますが、ぜひ、皆さんからも積極的に話し掛けてコミュニケーションを取ってください。また、分からないこと、困っていることがあったら遠慮せずに言葉にしましょう。話し掛けられた先輩の先生は、きっと喜んで相談に乗ってくれるはずですよ。みんな通って来た道ですから。4月から一緒に頑張りましょう。

(参考様式)

令和6年度宮城県公立学校教員採用予定者情報交換会

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 南三陸町立名足小学校

職・氏名 教諭 芳賀拓也

1 はじめに

私も以前、採用予定者として情報交換会に参加させていただきました。当時の私は4月までにどのような準備をしたらよいかといった疑問がたくさんありました。

来年度から一緒に働かせてもらう仲間として、自身の経験が参考になれば幸いです。

2 私の教員生活

(1) 初任者として迎える1年目の不安

採用試験に合格し、安心した後すぐに感じたのは、「どこに勤務するのか」「学校・職場環境はどうか」といった漠然とした不安でした。自分では対処しきれない不安にかられる日々でしたが、初任地でお世話になった皆さんは誰もが優しく、私のことを応援してくださる方々でした。また、同期の支えにも助けられながら、経験を少しずつ重ねることができました。

こうした経験は教員をされている多く先生から聞かれる話です。ですから、きっと、どの町の、どの学校の、どの職員さんも皆さんが来るのを楽しみにしていますし、応援したいと思ってくれているはずです。

(2) 試行錯誤ができる環境のありがたさ

校長先生から学校の経営方針や目指す児童像を示していただき、それに従って様々な教育活動について、新年度の具体的な計画が立てられていきます。

ですが、どれだけ具体的な計画があっても、学級担任として児童の前に立てば、自分の言葉で指導していかなければなりません。どうすれば学級の児童に伝わるのか、これだけでも難しい課題です。すべてに当てはまる正解がないという難問を目の前に、どのようにし一つずつ答えを見つけていくのか。考え、実践し、振り返る日々は苦しくもありますが、見つかった瞬間の喜びは格別です。さらに、担任が指導しやすいようにと、たくさんの人たちが環境づくりなどのサポートをしてくれます。その分、児童の成長を職場のみんなと喜び合えるのも、醍醐味の一つです。

(3) 教員として課せられた責任

学校には様々な願いや希望をもった子供たちが通います。保護者も学校に通うまで、様々な喜びや苦勞、願いを感じながら子育てをしてきています。これらを踏まえて担任として児童、その家族と関わる「大事な1年」と捉える必要があります。

子供の成長過程で、自分の一言がどのように影響するのか想像していくと、この仕事の責任の重さを強く感じます。相手に寄り添い、一緒に歩みを進める意識をもって仕事をするのが大事です。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 南三陸町立伊里前小学校

職・氏名 教諭・田中 佑典

1 はじめに

宮城県公立学校教員新規採用者のみなさん、御採用おめでとうございます。私は生まれも育ちも兵庫県神戸市で、大学を卒業後11年間愛知県での教員生活を経て令和4年度から宮城県の小学校教員として働き始めました。今回は「みやぎの教員からのメッセージ」という機会を通して私が愛知県でも宮城県でも教師として大切にしてきたことをお伝えしようと思います。これから教壇に立たれる先生方に向けてわずかながらもお力になればと思います。よろしくお願いいたします。

2 私の初任校での思い出

①虫博士と愉快的仲間たち（9歳・12歳、そして19歳での再会）

教師として初めて担任した子供たちは小学校3年生。何もかもが初めてで子供から学ぶ日々でした。休み時間が終わっても教室に帰ってこない虫博士。誰が姫役をやるかでモメた学習発表会。そんな子供たちは初めて送り出した卒業生でした。子供たちには教えたことよりもいつも教えられたことの方が多く、忘れられない思い出ばかりです。

②灯台を愛し、本気で地域を興そうとする先輩教員

地域の歴史やシンボルを教材化し、総合的な学習の時間の授業を充実したものにしていった先輩教員。地域のよさを教材化する楽しさや、学びを地域に向けて発信する学習展開は当時の私にとっての憧れでした。

③授業が上手になりたい

「授業を見に来てください。」と自ら指導主事の先生にお願いした研究授業。しかし、思った通りにいなくて子供たちが帰った後、板書を見つめながら1時間。当時の教頭先生から言われたのは「自分も納得のいく授業ができたことなんて、ほんの数えるくらい。はやく職員室に帰っておいで。」でした。

3 これから教壇に立つみなさんへ

①経験がなくても、技術がなくても伝わる想い

一緒に遊び、一緒に学ぶ。一生懸命な先生方の姿はきっと子供たちにとって忘れられない姿になるはずです。大切なことはいつも子供に正対していることです。

②10年後、どんな先生になりたいですか

職員室の中に「自分が10年後目指したい姿」の先輩教員を探してみましょ。成長の一步はまず模倣から。たくさん真似して吸収してみましょ。

③教師にとって授業は永遠のテーマ

授業は子供と先生が一緒になってつくるものです。よい授業とはどんな授業か。考えが深まる授業とはどんな授業か。本当に終わりのないテーマです。頭で考えるよりも、質の高い授業をたくさん見たり、先輩の先生に授業を見てもらったりする経験をたくさん積んでみましょ。

4 終わりに

宮城県は西を見れば山々がそびえ、東を見れば雄大な太平洋の海を眺めることができる自然豊かな場所です。また、地域ごとの歴史や文化が色濃く残っていたり、東日本大震災の教訓を生かした町づくりをしていたりと、これからの時代を生き抜く人材を育てるための素材にあふれています。そんな宮城県で新しく教壇に立たれる先生方と一緒に子供たちを育てることができることを楽しみにしています。

みやぎの教員からのメッセージ

白石市立白石中学校
教諭 鈴木 陽大

1 はじめに

令和6年度宮城県公立高等学校教員採用予定者のみなさん、新規採用おめでとうございます。教壇に立つみなさんにとって、教員生活の手助けになれば幸いです。

2 教員になろうと思ったきっかけ

私が教員になろうと思ったきっかけは2つあります。1つ目は「大学時代の挫折経験」です。私は研究者になりたいという思いから大学進学をしましたが、周囲の優秀さに挫折し、研究者の道を諦めました。夢を諦めたとき、中学生の時に「研究者になるために必要なこと」がわかっていれば、大学の時に挫折せず研究者になれたかもしれないという思いが芽生えました。2つ目は「中学生のときの思い出」です。中学生のとき、学校全体が荒れている時代でしたが、先生方が誰一人見捨てることなく、一生懸命に関わってくれたおかげで楽しい中学校生活を送れた思い出がありました。この2つのことから、「生徒に自分と同じ後悔をしないように指導したい」、「生徒と一緒に楽しい思い出を作りたい」と思うようになり、中学校の教師を目指しました。

3 生徒と関わる時間を大切にするために

教員になろうと思ったきっかけは人それぞれだと思いますが、「生徒を育てたい」、「生徒と一緒に成長していきたい」といった気持ちはみなさんに共通するのではないのでしょうか。しかし、実際に教員になると、様々な仕事で時間を取られ、生徒と関わる時間を大切にできない状況が多くあります。そこで、生徒と関わる時間を大切にするために「新任の先生方」が今わかっておいた方が良いことを伝えたいと思います。

① 学ぶは「まねぶ」

- ・ できないことが当たり前なので、積極的に先輩から教えてもらいましょう。
- ・ 教えてもらうために先輩の良い点を普段から見ときましょう。
- ・ 先輩からデータを参考にし、有効活用しましょう。

② 助けてもらうために

- ・ 自分の仕事ではないと思うことも積極的に手伝いましょう。
- ・ 頼まれる前に自分から手伝いましょう。
- ・ 助言は素直に聞きましょう。
- ・ 積極的にコミュニケーションを取りましょう。

4 終わりに

期待と不安が入り混じった緊張感の中、4月から新任教員として働くことと思います。生徒と関わる時間を大切にするために、今回お伝えしたことがみなさんの役に立てばと思います。また、仕事をしていると悩むときが必ずあります。その時はすぐに同僚の先生を頼ってください。きっと支えになってくれます。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 利府町立利府中学校

職・氏名 教諭・手塚 雄介

1 はじめに

令和6年度宮城県公立学校教員採用予定者の皆様、採用おめでとうございます。この道を進むことを決めた理由は人それぞれだと思いますが、やりがいのあるとても魅力的な職業を選択されたことは正しい決断です。

私は、教員になって14年目になります。これまで、様々な職場でいろいろな経験をさせていただきながら今に至ります。教職だけではなく、どんな仕事でもそうだと思いますが、大変なことや踏ん張らなければならないことはもちろんあります。ただ、それ以上に嬉しく感じることや感動することがあったからこそここまで続けられたのだと思います。私の経験でしか語れませんが、皆様の不安を少しでも解消できるように、教員の魅力を伝えたいと思います。

2 私の教員生活

I 【初任 ～ 3年目】 塩竈市立浦戸中学校（現：塩竈市立浦戸小中学校）

- ・島の学校だったので、生徒と一緒に船で通っていました。船の中でも勉強を教えていました。波が高いときや濃霧の時には船が出航できないので、近くの施設の会議室で授業をしたこともありました。
- ・児童生徒がとても落ち着いており、研究に力を入れている学校でした。指導案の書き方から発問の質、板書の仕方までたくさんご指導いただきました。ここで学んだことが今の授業づくりの根底になっています。
- ・1年目の終わりに震災を経験しました。非常事態での管理職等のリーダーシップの素晴らしさが今でも印象に残っています。
- ・小学校の算数も教えることができたのは、今思うと貴重な経験でした。

[失敗談・苦労話]

① 「活動あって学びなし」

1年目の1月頃に学級活動の研究授業をしたのですが、事後検討会で小学校の教頭先生にいただいた言葉です。自分自身が十分に教材研究できていないことを痛感させられました。

② 行事を運営する上での「根回し」の重要性

2年目で「浦戸合宿」という、宿泊を伴う大きな行事の全体計画を任せられました。震災後だったので、これまでできていた活動が全てできなくなり、白紙の状態で活動内容を考えなければなりません。視野が狭く、何から手を着けて良いのか分からずにあたふたしている間に島の方の協力をお願いしなければならないことも後手に回ってしまいました。

[嬉しかったことなど]

① 何も分からない時期に手本となる先輩教員たちの姿を見ることができた

初任である私をしっかりと育てようという気持ちが先輩教員から感じられました。自分ができないからこそ厳しい言葉もたくさんかけられましたが、その手本となる行動を具体的に示してくれたので、見たものをそのまま真似するように意識していました。「学ぶ（まなぶ）」ことは「真似ぶ（まねぶ）」ことだと実感しました。

② 生徒から祝われた初めての誕生日・卒業前の生徒自作の動画

知らない間に教室を装飾し、サプライズで盛大に祝ってくれた誕生日会はとても嬉しかったです。また、卒業式の前に、3年間担任をした生徒たちが、自作の動画を作成して私に感謝の思いを伝えてくれたことには感動しました。動画作成の際に、小学校の教頭先生の力も借りていたようで…。嫌な顔一つせずに生徒の頼みを聞いてくださったことに心から感謝しました。

II 【4年目 ～ 7年目】 塩竈市立第三中学校

- ・異動して1年目、3学年を担当することになりました。とても大変な学年でした。ただ「自分たちは嫌われている学年だ」と生徒が感じてしまっている悲しい学年でもありました。なかなかラポートがとれずに辛いことがたくさんありましたが、「ダメなことはダメだ」と、生徒と正面からぶつかりました。
- ・4年間サッカー部の顧問をさせていただいたのですが、もう一人の顧問の先生が生徒指導主事でした。この先生と多くの時間を一緒に過ごすことで、生徒指導のノウハウを教えていただき（真似することができ）、生徒指導のスキルが向上したように思います。
- ・県外出張にたくさん行かせていただきました。東京、新潟、福井など、他県の学校の実態を知ることができて、とても刺激になりました。

[失敗談・苦労話]

① 本当に大変な毎日

毎日と言っていいほど問題が起き、その度に指導していたので、精神的な疲れが大きかったです。正直に言うと「学校に行きたくない」と思ったこともありました。それでも生徒は教員の様子をしっかりと観察しているので、「生徒に“見捨てられた”と思わせたくない」という一心で何とか頑張りました。

② 「担任面してるんじゃないぞ」

自分のクラスの男子生徒1名とまったくラポートがとれずに、結果的に不登校気味になってしまいました。卒業間近に久々に登校してきたのですが、髪を染めていたために教室に入れるわけにはいかず、別室で対応していました。そこで彼に上記の言葉を言われました。彼の信頼を得られないような何かしらの言動をしてしまっていたのだと後悔しました。

[嬉しかったことなど]

① 「もっと早く先生がきてくれればよかったのに」

大変な学年を持っているときに、自分のクラスの女子生徒に言われました。6月頃だったと思います。信頼関係が築かれつつあることが感じられ、少し嬉しく感じたのを覚えています。

② 誕生日にもらった手作りのホールケーキ

手のかかる女子生徒が学年で4人（自分のクラスに2名）いたのですが、自分のクラスの子が、私の誕生日に手作りのホールケーキを作って持ってきてくれました。自分の母親にも妻にも作ってもらったことがない手作りのホールケーキを、悩みのタネである女子生徒が作ってくれたことに心から感動しました。一生忘れない自信があります。

③ 卒業後に立派になった姿を見せに来てくれたこと

大変だった学年の生徒達も、卒業してからは大人になり、それぞれの道で立派に頑張っている姿をたまに見せにきてくれます。当時一緒に勤めていた同僚の協力もあって、先に紹介した「担任面してるんじゃないぞ」と発言した彼とも1月に会う予定です。7年ぶり位なので少し緊張しますが、とても楽しみです。

III 【8年目 ～ 14年目（現在）】 利府町立利府中学校

- ・毎年、全校生徒数500人前後の規模の学校で様々な経験をさせていただいています。研究主任や生徒指導主事などもやらせていただき、とても充実した教員生活を送れています。
- ・宮城教育大学教職大学院に2年間研修に行かせていただきました。また、秋田と横浜にも研修に行かせていただきました。

3 終わりに

これから先、苦しい場面は必ずあると思います。自分で対応できる知識と経験が十分に得られるまでは、遠慮せずに周りの先輩教員に頼ってください。そして、力のある先輩教員の動きをしっかりと観察し、良いと感じたことは真似をしながら自分のものにしていってください。どこかでご一緒できることを楽しみにしています。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 登米市立佐沼学校

職・氏名 教諭・吉野 秀幸

1 はじめに

「人間は一生のうちに逢うべき人には必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に。」

私の教員人生を振り返ると、「運が良かった」と感じます。たくさんの出会いに恵まれてきました。特に初任地は特別です。厳しくも本気で指導してくれた上司，尊敬する先輩方，多くの時間を過ごした同期の仲間，たくさんの喜怒哀楽を共有した生徒，そして保護者。すべての出会いが，教師としての私の「今」を形作っています。これからみやぎの教員として教壇に立つ皆さんにも，多くのすばらしい出会いが待っているはずです。

2 私の教員生活

(1) 初めの3年間で教材研究を！

毎日止まることなく進んでいく授業。その準備や終わりの見えない教材研究も，初めは一苦労でした。しかし，最初の3年間の努力がその後の自分を支えてくれます。モチベーションは生徒の反応です。「わかった！」という表情や授業後も友達同士で議論し合う姿に，もっと良い授業をしようという気持ちになります。

(2) 言葉を大切に

授業や普段の会話だけでなく，学級通信や掲示物，卒業式の色紙など，多くの言葉を生徒に贈ってきました。その言葉を，今も大切にしてくれている卒業生もいます。

3 これから教壇に立つみなさんへ

(1) 教師という仕事はこんなにも楽しい。心の震える瞬間を！

(2) 出会いを大切に。同期，先輩，後輩，保護者…。教育とは人が人に行うものであり，人とのつながりがなくては成り立ちません。出会いが自分を助け，支えてくれます。

(3) スポンジの心でなんでも吸収しましょう。初任の3年間は様々なものを吸収し，自分自身を成長させるチャンスです。自分にはない考えや知らなかったことほど，どんどん吸収してください。

(4) 学校とは一つの組織です。自分が見えないところで，誰かが動いています。それに気付く感性が大切です。また，自分の仕事を誰も見ていなかったとしても，組織に貢献していると思える感性もまた，大切です。

4 終わりに

ここでの出会いも，出会うべくしての出会いです。同じみやぎの未来を育てる教員の仲間として，互いに切磋琢磨しながら頑張っていきましょう。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 大崎市立鹿島台中学校

職・氏名 教諭 小野寺 俊 一

1 はじめに

先日、勤務校の2年生が職場体験学習を行いました。職場で実際に働く前と後では、「働くこと」や「憧れの職業」に対する意識に大きな変容が見られました。まとめの発表会の中で、ある生徒が、「働くことは大変だったけど、どんな仕事でも必ず人の役に立っていることに気付き、やりがいを感じました。働くとは、誰かを支えることだということが分かりました。」と述べていました。職場体験を通して、また一つ成長したと感じられる生徒の姿を大変うれしく思いました。教師の仕事には、多くの「喜び」や「やりがい」があります。みやぎの教員として共に働くみなさんが、たくさんの「喜び」に出会い、充実した教員人生を歩むことを願っています。

2 私の初任時代

今でもはっきりと覚えている初任時代最初の大失敗は、市中総体の申込書でした。私は、当時バスケットボール部の顧問をしていました。大会当日に申込書を兼ねているメンバー表に校長先生の職印を押印して大会本部に提出する規則になっていました。よく確認もせず、職印の意味を理解しないまま当日朝に、職印がないメンバー表を本部に提出し、「これでは大会に参加できませんよ」と受付で話があり、凍りついたことを昨日のこのように覚えています。学校に半泣きで連絡し、後から教頭先生が、職印が押印されたものをこっそり持ってきてくださり、無事大会に参加することができました。職印の重みを知り、自分の確認不足を悔い、教師の行動一つが生徒の人生に大きな影響を与えることを肌で感じたエピソードです。

教員生活にも少しずつ慣れてきた頃の話です。放課後に一人で教室整備をしていたときに、忘れ物を取りに来た生徒と話をしていたら、その生徒が「本当は〇〇高校に行きたいんだけど、どうせ無理だし…。」とこぼしました。当時、地域の高校のこともよく分からずに、「今から無理だと決めつけずに、あきらめずに努力してみたらいいのに。」と何気なく話しました。そのことは、私の記憶からも薄れ、その生徒は卒業していきました。その生徒からももらった手紙には、「放課後のあのときの言葉がきっかけで、憧れの高校に挑戦しようと努力できました。」と書かれていました。その生徒は結局、別な高校に進学することになったのですが、その手紙を読むまで自分の発言をよく覚えていませんでした。自分の言葉、行動が思いがけず生徒に影響を与えていたことに気付き、考えさせられました。

3 これから教壇に立つみなさんへ

前述した二つの話は、教員としての自分の考え方に影響を与えたエピソードの中のほんの一部です。思い返すと、憧れの職業であった中学校教員としてのスタートは、失敗と挫折の連続でした。失敗に気付くことすらできていなかったかもしれません。どうすればよいか悩んだり、迷ったりしながら、それでも、これまで教員を続けることができているのは、多くの先輩方のアドバイスや見えないところでのフォローがあったからだと思います。これから教員としてご活躍されるみなさんも、壁にぶつかるときがあるはずですが、教師の仕事は、「出会い」の連続です。きっとみなさんを支える「出会い」があり、みなさんが誰かを支える「出会い」があります。働くことは、「誰かに支えられ、誰かを支えること」です。みやぎの教員としてみなさんと共に働くことを楽しみにしています。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 宮城県白石高等学校

職・氏名 教諭・海沼 遼祐

1 はじめに

- ・自己紹介（現在に至るまでの経歴）

2 私の教員生活

(1) 履歴書

平成30～令和元年 仙台第一高校

- ・非常勤講師（2年間）

令和2～5年 白石高校

- ・副担任（1年間）、担任（3年間）、もうすぐ初めての卒業生を出す・・・
- ・生徒指導部（4年間）、男子バスケットボール部顧問（4年間）

(2) 私の一日

3 これから教壇に立つみなさんへ

(1) 初任者としての姿勢

◇パソコンでも書類でもなく、生徒と向き合う仕事です

忙しい毎日。事務仕事もたくさん。しかし、生徒の気持ちの変化は後回しにはできません。生徒と向き合う事が私たちの仕事です。

◇周りの先生への尊敬と感謝を

経験が物をいう仕事です。様々な経験をしてきた先生のアドバイスをしっかり聞いてください。周りの先生の仕事ぶりをよく観察していると、仕事にやり方の幅が持てます。そういう関係を作ることも大切。

◇時代が変化しようが、礼儀は大切

元気に挨拶をする、お礼を言う、相談する、報告する、すぐ動く！笑顔で過ごす。

(2) 準備

◇あなたの、教師としての「信念」はなんですか？

どんな教師になりたいか、教師として貫きたい「信念」は何か。

芯のある教師を生徒は信用します。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 宮城県加美農業高等学校

教諭 早坂 貴恵

1 自己紹介

2 私の教員生活～喜怒哀楽～

喜：支援学校の「卒業式」

怒：「使い捨てのポケットティッシュ」

哀：23時のクリスマス・警察署で迎えた誕生日「我が子の我慢」

楽：子どもたちの「成長」

3 これから教団に立つ先生方へ

- ・チームワーク（教員のコミュニケーション）
- ・素直さ（ありがとう！ごめんなさい！！教えて！！！！）
- ・健康（やっぱりこれが一番です）



みやぎの教員からのメッセージ

所属校 : 宮城県田尻さくら高等学校

職・氏名 : 教諭 ・ 佐藤 さつき

1. はじめに

① 自己紹介

高校教員（5年目、地歴公民科）／1年次チューター／進路指導部／特別支援教育コーディネーター

※大卒後1年間千葉県の塾会社にて勤務。その後、宮城に戻り非常勤講師（1年）→常勤講師（3年）

② 所属校紹介

“柔軟な学びのシステム”を実現する、定時制・昼夕間開講型単位制高校。生徒一人ひとりの希望や生活スタイルに合わせた学習活動を展開。多くの授業が少人数で実施されており、Ⅱ部制・単位制の利点を生かした先進的な学校で、年々生徒数は増加しています（初任時約140名、現在約190名）。

2. 私の教員生活

全日制高校と、何もかも異なり「私は今後教員としてやっていけるのだろうか」と悩む日々を送る。初任研担当教員から「田尻さくらだからできることが沢山ある。好きなように、思いっきりやってみな。」と助言をいただき、本当に好きにやった。2年目以降は、生徒指導部や所属年次で仕事を任せていただくことが増え、先生方と相談しながら進めることができました。「生徒たちにこんな力を身につけさせたい。こうなってほしい」と、生徒の卒業後を見据えた指導を心がけるようになったのは、3年目以降だったかもしれません。核にあるのは、生徒が幸せになってほしいから。ビジョンを持つことの大切さに気付く。

5年目の今年度は、初の1年次担当。地理総合の遠隔授業や特支も担当することになった。やったことのない仕事に対する不安感は大きかったのですが、これもまた、なんとか周りの先生方の協力や助言、励ましの言葉をいただいて、今に至ります。

3. これから教壇に立つみなさんへ

初任時の校長先生から、「初任者としての一年は、ただの一年ではなく“教員としての器を作る”一年であることを忘れてはならない。」と、教えていただきました。また、「教員は授業が命」とも。これは私が初任のときから大事にしていることばです。4月から忙しい日々が始まるかと思いますが、まずは授業づくりを一生懸命に取り組んでほしいと思います。準備に時間をかけても、うまくいかないことの方が多いかもしれません。まわりの先輩教員の授業を見て・真似るところから初めるといいと思います。真似したスキルが、やがてスキルではなく自然にできるようになるはず。教材研究に時間をかけられる一年目だからこそ、じっくり取り組んでほしいと思います。アンテナを高く持ちさまざまなことに挑戦して、ご自身の可能性を広げていってください。

4. おわりに

楽しみなこと・挑戦してみたいこと・不安に感じていること、どんな児童・生徒たちがいるのか、同僚になる先生方はいい人たちなのだろうか…？と、さまざまな感情の中にいると思います。心配事はたくさんあるかと思いますが、その学校の教員はあなただけではありません。一人で抱え込まず、困ったことがあったら相談してください。嬉しかったことがあれば教えてください。重く考えず、ワハハと楽しむ気持ちを持つことが大事だと思います。初任だろうと、ベテランだろうと、みんなで学校を盛り上げていけばいいんです。どうせやるなら面白がって。グッドラック！

(参考様式)

令和6年度宮城県公立学校教員採用予定者情報交換会

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 宮城県柴田高等学校

職・氏名 教諭・長谷川 直己

1 はじめに

自分の教員としての生活を振り返り、良くも悪くも参考にして頂ければと思います。そこで自分の教員生活の幸福度をグラフ化して説明させていただきます。



2 私の教員生活

※これまでの経験をふまえた失敗談、苦労話、感動秘話など

大学院卒業から教員 14 年目まで①大学院卒業から初任, ②1校目: 茨城県立高萩清松高等学校, ③2校目: 茨城県立多賀高等学校, ④3校目: 現任校宮城県柴田高等学校でそれぞれ起こった事象や経験について話します。この中で得られた知見を共有させていただきます。

3 これから教壇に立つみなさんへ

私から新任の方に伝えたいことは大きく, ①同期を大事に, ②まずはやってみる (でも潰れそうになったら逃げる), ③信念を持って取り組む, ④他の先生と比べない, の4点です。

4 終わりに

一番大切なことはこの最初の一年を乗り切ることだと思います。何か特別なことができなくても良い, ただ学校に来てくれて, 授業をしてくれるだけで周囲の先生は助かっているということを知ってもらいたいと思います。

上記の内容が概要です。当日は添付しましたパワーポイントで説明したいと思います。よろしくお願ひ致します。

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 宮城県水産高等学校

職・氏名 教諭・安住 哲也

1 はじめに

- ・簡単に自己紹介

英語科 教諭9年目（採用まで3年） 勤務校3校目（角田、加美農、水産） 担任6年（1～3年生を2回）

2 私の教員生活

（1）角田高校での4年間

- 1) 1年目 1年副担任 野球部部长
- 2) 2年目 初担任（1年） 担任としての初入学式 生徒会担当 球技大会主担当
女子バドミントン県常任委員 アメリカ姉妹校交流引率
- 3) 3年目 2年担任 生徒会担当 球技大会主担当 英語科主任
男子ソフトテニス部正顧問（副顧問なし）
- 4) 4年目 3年担任 生徒会担当 男子ソフトテニス部正顧問（副顧問なし）
課外講習（週1） 進路指導 突然のめまい 担任としての初卒業式

（2）加美農業高校での4年間

- 1) 1年目 2年副担任 担任のサポート 硬式テニス部副顧問（地区事務局）
生徒会会計（代行） 韓国姉妹校交流引率 寮舎監（月1～2）
- 2) 2年目 1年担任（ほぼ女子クラス） 生徒会担当 文化祭ステージ担当 英語科主任
硬式テニス部副顧問 寮舎監 情報化推進リーダー
- 3) 3年目 2年担任（ほぼ女子クラス） 生徒会担当 文化祭ステージ担当 英語科主任
硬式テニス部副顧問 寮舎監 情報化推進リーダー 体重が前年比-3kg
- 4) 4年目 3年担任（ほぼ女子クラス） 教務支援システム担当 硬式テニス部副顧問
寮舎監 進路指導 体重が戻る

（3）水産高校での話

- 2年副担任 進路指導部 男子バスケットボール部副顧問

3 これから教壇に立つみなさんへ

- ・保護者への敬意を忘れない
- ・他の先生方とのコミュニケーション、チームとして動くことの重要性
- ・持続可能な働き方が大事
- ・頑張らないといけない時も必ずある

4 終わりに

- ・教員のやりがいの話

（水産高校に異動後半年、加美農で3年間持ち上がったクラスの生徒に実施したアンケート結果から）

みやぎの教員からのメッセージ

所属校 宮城県総合教育センター

職・氏名 主幹・及川 僚子

1 はじめに

養護教諭の夢が叶い、来年の春から「保健室の先生」としてお仕事を始める皆さん。うれしさや期待とともに、緊張もいっぱいだと思います。私が採用1年目に味わった楽しさや戸惑った経験、失敗の中から学んだことについてお伝えし、教員生活を迎える皆さんに、先輩養護教諭としてエールを送ります。

2 私の「保健室の先生」生活

・初任地は、海沿いの生徒数50名の小さな中学校。

養護教諭、給食主任、清掃主任、部活動顧問…どれもこれも初めてのことはかりで、緊張の毎日でした。初めての保健室経営は、「いつでも誰でも入りやすいように、明るい雰囲気です」と心掛け、常に保健室のドアは開けていました。そのかいかがあり、いつも誰かが話しに来ていました。生徒たちからは「僕が先生に教えてあげるよ!」と、生徒自身のこと、学校のこと、地域のことをたくさん教えてもらいました。また、生徒を通じ、保護者、地域の方々とも関わりが増え、人と関わることの楽しさを味わいました。

・養護教諭の仲間の有り難さ。

学校に養護教諭は一人配置が多いと思います。赴任してすぐに健康診断が始まります。大学で学んではいたものの、私にとっては分からないことだらけでした。校内で解決しようにも、専門的な部分は先生方に聞いても解決できないこともありました。そんな時は、前任の養護教諭に、近隣の学校の養護教諭に、同期の養護教諭に質問したり相談していました。「お会いしたこともない先生に電話するのはご迷惑かな」と思いつつ電話をすると「そうだよ、不安だよ。みんな同じだよ。なんでも聞いて」と優しい言葉を掛けていただきました。一人職だからこそ、みな同じ経験をしています。様々な機会に、養護教諭の仲間と助け合い、そして励まされました。

3 これから子供たちの前に立つみなさんへ

「どんな養護教諭になりたい?」私のターニングポイントで、先輩から掛けられた言葉です。これまで三度ありました。一度目は、採用5年目の時。来室する生徒への対応や先生に上手く思いを伝えられず悩んでいた私にK先生から。二度目は、10年目に恩師の養護教諭K先生から。三度目は、ベテランと呼ばれるようになった20年目。悩みがつかない私に先輩の養護教諭T先生からでした。この言葉をいただく度に、初めて養護教諭になった時のことやこれまでの経験を振り返り、自分は何がしたいのか、何を目指すのかと原点に戻ることができました。

皆さんは「どんな養護教諭になりたいですか?」

4 終わりに

学校は、子供のたくさんの笑顔やエネルギーが集まっている場所です。仕事をしていると、苦しいことや悩むことが多くあります。楽しいこと、うれしいことはもっと多くあります。養護教諭は子供の心と体の成長を間近で感じられる素敵な仕事です。たくさんの子供たちが皆さんを待っています。私たちと一緒に頑張っていきましょう。